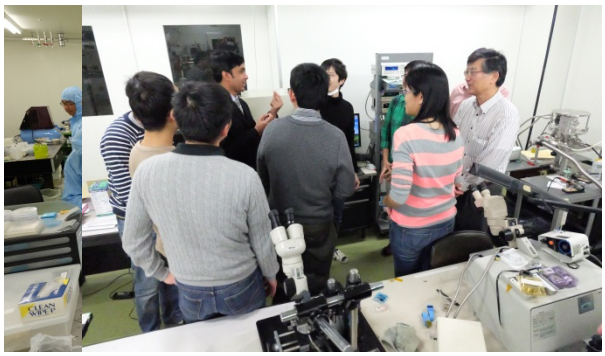
マレーシア科学大学物理学部の大学院生と東京都市大学総合研究所の大学院生が合同シンポジウムを開催

東京都市大学総合研究所

東京都市大学総合研究所では、JST 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）の支援を受け、平成 28 年 12 月 18 日より 12 月 24 日までの間、マレーシア科学大学・物理学部（Universiti Sains Malaysia, School of Physics）の大学院生 9 名と、指導教員 1 名（Senior Lecturer）を招聘し、総合研究所・ナノエレクトロニクス研究センター所属の院生と、東京都市大学(Tokyo City University, TCU)、マレーシア科学大学(Universiti Sains Malaysia, USM)合同の TCU-USM Joint Postgraduate Symposium on Nanotechnology & Nanoscience を開催しました。

マレーシア科学大学（以下、マレーシア科大）の院生は物理学の中のナノサイエンスの基礎研究、東京都市大学（以下、都市大）の院生はナノエレクトロニクス・フォトニクスデバイスというナノテクノロジーの開発研究を行っており、このシンポジウムにより、双方の院生に基礎研究から開発研究まで幅広い視野をもたせることをねらいとしています。

シンポジウムに先立ち、1 日は都市大の 3 キャンパスを見学し、都市大のオーストラリア語学研修を終えた学生などとの交流会を行いました。さらに 1 日は、ナノエレクトロニクス研究センターの大学院生たちによるクリーンルームでの装置の説明や、5 時間余りをかけた MOS 構造の作成とキャパシタンスの測定実験の様子を見学しました。



クリーンルームでの MOS の作成実験　　実験を終えて意見交換

シンポジウム前日は口頭発表の原稿チェック、ポスターセッションでのポスターの最終チェックと印刷を行い、シンポジウム当日を迎えました。

シンポジウムは朝 9 時半から夜 19 時まで、5 つのセッションからなり、最後のセッションは懇親会も兼ねたポスターセッションとなっています。最初のセッションでは、都市大国

際センター長による歓迎の祝辞に続き、都市大総合研究所長によるナノエレクトロニクス研究センターの紹介と引率の Yoon 博士によるマレーシア科大・物理学部の紹介が行われました。引き続く３つのセッションでは、都市大教員３名、マレーシア科大教員１名による招待講演、さらにマレーシア科大院生４名、都市大院生３名による口頭発表が行われ、合わせて 30 名以上の参加者との間で活発な質疑応答が行われました。最後に、都市大・工学研究科長による講評で口頭発表セッションを終えました。

口頭発表風景

口頭発表セッションを終えて

最終セッションは、会場をポスターセッションの会場に移し、懇親会も兼ねて行われました。

マレーシア科大の教員（左端）と院生たち

ポスターセッションでの活発な議論

　ポスターセッションでは、マレーシア科大院生５名、都市大院生６名の発表があり、活発な意見交換が行われ盛況となりました。日本、マレーシア両国の院生たちに大変刺激となったようすでした。

マレーシア科大の院生も熱心に質問

最終日は科学未来館を見学

一行は最終日午前中に JST 科学未来館を見学し、その後は、新幹線でかけつけた大阪の大学院に留学中の友人と会うもの、仕事で首都圏に滞在中の友人や親戚に会うものなど、思い思いに東京での半日を過ごし、翌朝、成田からマレーシア・ペナン島への帰路につきました。